



C O R P O R A T I O N R E P O R T 2 0 2 0

CORPORATE PROFILE / CSR REPORT DIGEST

Bilrite Tamura

The 12th Mid-term Plan 2019-2021 & 2024

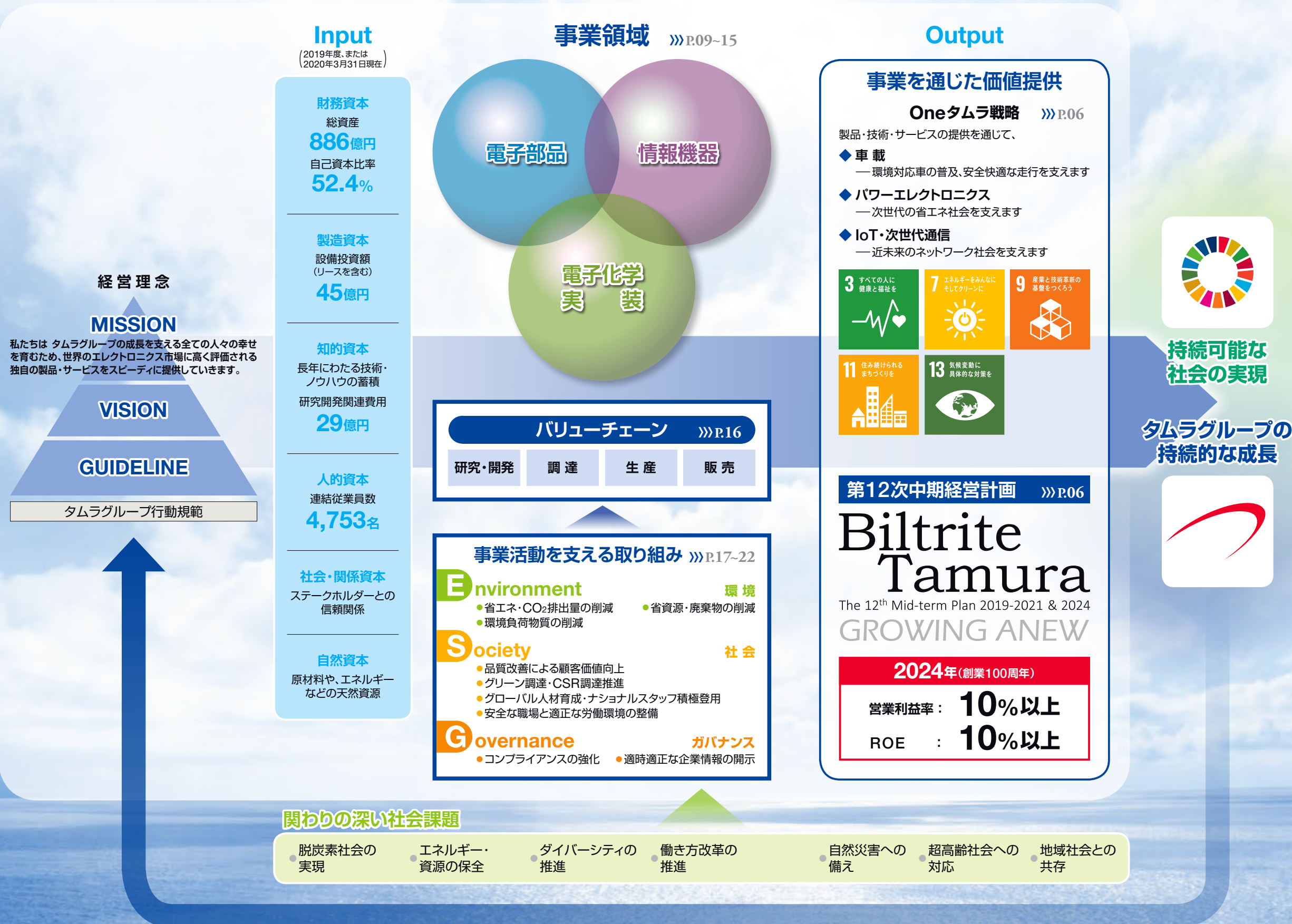
GROWING ANEW

Creating Value

タムラグループの価値創造

タムラグループは、事業活動を通じて社会に貢献していくことで、企業価値を向上し、社会的課題の解決に向けて、新たな価値創造に取り組めます。

TAMURA CORPORATION REPORT 2020 CONTENTS



タムラグループの価値創造	01
トップメッセージ	03

CORPORATE PROFILE	
事業の系譜とコア技術	07
製品紹介	09
事業紹介	
■ 電子部品	11
■ 電子化学実装	13
■ 情報機器	15
持続可能なバリューチェーン ～創出する付加価値～	16

CSR REPORT DIGEST	
CSR	
CSR目標と実績	17
環境報告	
環境トピックス	19
社会性報告	
社会・ガバナンストピックス	21

CORPORATE DATA	
会社情報	23
事業拠点	25

編集方針

本冊子は、グループ概要や事業を紹介した「CORPORATE PROFILE」と、CSRをダイジェストで報告する「CSR REPORT DIGEST」を1冊にまとめて、『TAMURA CORPORATION REPORT 2020』として発行するものです。

なお、CSRの詳細な報告は、タムラ製作所Webサイト「CSR」のページに掲載しています。

「CSR」の編集に当たっては、環境省「環境報告ガイドライン」、ISOガイダンス規格「ISO26000」を参照しました。

報告対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日
(一部、2020年4月以降の活動も含みます)

発行

2020年8月(前回:2019年7月 次回:2021年7月)

お問い合わせ先

CSR推進本部
TEL.03-3978-5293 FAX.03-3978-2760
E-mail:csr@tamura-ss.co.jp
Webサイト https://www.tamura-ss.co.jp/

「Oneタムラ」としてグループの総力を挙げて 100周年に向けさらなる発展に尽力してまいります。

タムラグループは長期ビジョンとして創業100周年(2024年)とその先に続く持続的な成長を見据える中期経営計画を、2019年4月よりスタートしています。そこに突然現れたコロナ禍の中、会長・社長の両名に現在の事業環境と今後の見通しに関する想いを聞きました。(インタビュー実施日:2020年6月2日)

2019年度の事業環境と主な業績について ご説明をお願いします。

浅田 2019年度は、米中貿易摩擦の最中に始まり、終盤に至って新型コロナウイルス感染症が経済を直撃するなど、当社にとって波乱の1年となりました。なによりもまずは、新型コロナウイルスに罹患された方々、困難な状況におかれている方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。また、感染拡大防止のために、それぞれの立場で日々努力し、社会に貢献されている全ての皆様へ、深く感謝を申し上げます。

収益面では、残念ながら「米中摩擦」と「新型コロナウイルス」という2大要因によって対前期比で減益となり、中期経営計画初年度の目標も未達となってしまいました。

特に期待をしていた「車載製品」は、新型コロナの影響で自動車メーカーの生産計画が後ろ倒しになったことから事業全体が停滞しました。しかし、今後もハイブリッド車など環境対応車のニーズは高まり続けると予測しており、アフターコロナの需要

増に期待しています。また、電子化学製品では中国の5G市場が拡大を続けていますので、米中摩擦の中でも今後の投資の伸びが期待できると考えています。

2020年1月に実施された 「経営層の担当事業変更」の狙いを教えてください。

浅田 2019年度にスタートした中期経営計画「Biltrite Tamura GROWING ANEW」では、今後の市場拡大が期待される「車載」「パワーエレクトロニクス」「IoT・次世代通信」の3分野を成長の柱に位置付けています。これらの市場に「Oneタムラ戦略」として、全社員が「One Team」となり、総力を結集して顧客にアプローチしていくことを方針としています。

今回、各分野に精通した事業部トップの配置を換えたのは、各事業部のベストプラクティスを他の事業領域でも展開し、異なる事業同士の掛け合わせによる化学反応を期待したものです。例えば車載製品には、電子部品だけでなく電子化学や

株式会社タムラ製作所
代表取締役会長

田村 直樹

実装装置関連のビジネスチャンスも存在しています。つまり、さらなる業績拡大のためには事業部単独ではなくグループ丸となったアプローチが重要であるわけです。これまで以上に事業の垣根を超えた人材活用を加速させながら、全社レベルのビジネス効率化を進めていきたいと思っています。(06ページ)

業績拡大に向けた顧客へのアプローチの ポイントはどのようなことでしょうか。

浅田 グループ丸となって個々のお客様に向き合い、「タムラグループは、部品、材料、装置など多様な事業を手がけている」ということに加え、事業の幅が広いからこそ業績も安定し、グローバル規模でネットワークが広がっていることを、お客様にご理解いただきたいと考えています。今後のビジネスシーンでは、「タムラ」というブランドの浸透をミッションとして、第一にタムラグループの全体像を、第二に各事業の内容を紹介することで理解を深めていただき、最終的な商談につなげていくというストーリーを思い描いています。

Oneタムラ戦略における 人材活用や人材育成の考え方をお聞かせください。

浅田 当面は、Oneタムラ戦略に連動して経営層の強化と育成に力を入れていきます。これまでボトムアップの教育プログラムは比較的充実していた反面、経営のけん引役となる人材育成が急務となっているためです。(22ページ)

また、ビジョンに連動した人事制度改革も進めます。当社の

ような「ものづくり企業」では、イノベーションを担う専門職社員にマネジメントの負担まで重なると、せっかく尖った感性を持つ貴重な人材が開発に時間を割けないという弊害が生まれます。しかも「名選手、必ずしも名監督にあらず」と言われるように、専門職として優れた人がマネジメント能力にも長けているとは限りません。であれば、人事制度としても専門職が自らの専門領域を極めながら上を目指せることが必要です。働き方改革は「働きやすさ」ばかりが目されますが、「働きがい」も重視して、開発者や研究者には研究開発に没頭できる環境を提供する制度を構築したいと考えています。

SDGs(持続可能な開発目標)の基本方針 タムラグループ行動規範

持続可能な社会の実現とタムラグループの持続可能な発展を両立させることが、タムラグループの社会的責任(CSR)であると捉え、SDGsを社会的課題に関する世界の共通言語として認識し、SDGsがもたらす事業機会とその達成に向けて企業が果たすべき責任を理解すると共に、製品・サービス・技術と事業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



株式会社タムラ製作所
代表取締役社長

浅田 昌弘

脈々と輝き続ける 歴史に培われた技術力

HISTORY

日本でラジオ放送が始まる1年前の1924(大正13)年、当社の前身である「田村ラヂオ商会」が創業しました。ラジオ修理、さらにオリジナルのラジオ作りを行う中で、「良い音」の追求から、その鍵となるトランスの製作を手掛けるようになり、「トランスのタムラ」としての礎を築きました。

since 1924



ラジオ、蓄音機の製作・販売

1930～トランスの自作化ビルトライト

その後、トランスを軸とした各種電子部品、良いトランスを作る良い接合材料への追求からフラックスやはんだ材料、はんだを接合するためのはんだ付装置、さらには放送用・通信用トランスの実績から放送用音声機器・通信機器へとその業容を広げてまいりました。

現在では、電子部品、電子化学実装、情報機器の3つの事業分野で、環境やエネルギーなど新たな市場のニーズに応える製品を開発、供給しています。



各種トランス

1956～ソルダーライトフラックス

1957～ソルダーペースト

1961～レジストインク

1968～自動はんだ付装置

1961～放送用音声調整卓

1962～ワイヤレスマイクロホン

1976～伝送監視装置

PRODUCTS

電子部品

スイッチングトランス、リアクタ、コイル
(高周波製品)

電源トランス、リアクタ、コイル
(低周波製品)

特殊大型トランス・リアクタ

電流センサ

ACアダプタ・バッテリーチャージャ
電源モジュール
屋外LED照明用電源
ゲートドライバモジュール

圧電セラミックス製品

LED関連製品
自動販売機関連製品
IoT関連製品(人感センサ/バイタルセンサ)

電子化学実装

ソルダーペースト
ポストフラックス
導電性接合材

ソルダーレジスト
(リジッド基板用・フレキシブル基板用)
(写真現像型カバーレイコート)
OSP(プリフラックス)
白色反射材、黒色吸収材

リフローはんだ付装置
ウェーブはんだ付装置
スプレーフラクサ他周辺機器

情報機器

放送用音声調整卓
音声周辺機器等

ワイヤレスインターカム
ワイヤレスマイクロホン

通信ネットワーク機器
セキュリティ関連機器
各種OEM製品

CORE TECHNOLOGY

パワーソリューション

- ダストコア素材開発と量産化技術
- 電磁界、熱、構造の各解析(シミュレーション)技術
- 高効率低ノイズ電源技術
- 大電流トランス巻線技術
- 環境対応技術
- 高信頼規格(JAXA・MIL規格等)適応技術
- 大型製品量産技術
- 特殊仕様(水冷・防水・高圧)設計技術

圧電セラミックス

- 材料開発・プロセス技術
- 素子設計技術・解析技術
- 圧電素子の制御技術

LED/LD応用・IoTソリューション、半導体デバイス

- LEDパッケージング技術
- 防水技術
- 熱設計・解析技術
- 光学設計・解析技術
- 高効率反射処理技術
- センシング技術
- データ処理技術
- 単結晶基板育成技術
- 高品質エピ成膜技術
- 高効率・高出力LED製造
- 照明設計技術
- 光学単結晶技術
- 無線技術

実装プロセス/プリント配線板材料/半導体実装材料

- 材料と設備一体の製品開発とコラボレーション
- 樹脂設計・合成技術
(感光性樹脂・熱硬化性樹脂・熱可塑性樹脂)
- 金属粉末製造技術
- 光硬化技術
- 環境対応技術(鉛フリー化対応、ハロゲンフリー化対応)
- シミュレーション技術(C.A.E解析)
- 材料設計に貢献する分析技術
- 製品品質に係る信頼性評価技術
- リフロー加熱技術
- ウェーブはんだ付技術
- (窒素)雰囲気制御技術
- はんだ接合技術
- 熱硬化技術
- ソルダリング技術
- 熱制御技術

情報機器

- 音声処理技術
- デジタル信号処理技術
- 音響技術
- 高周波技術
- 無線技術
- 高密度実装技術
- サラウンド音響技術

社会・産業・暮らしを支える タムラのテクノロジー

航空・宇宙で

航空機からロケット・人工衛星まで、究極の耐環境性で社会に貢献しています。



トランス・リアクタ

灯台で

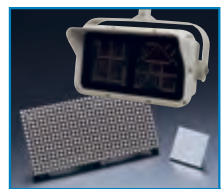
超高輝度で、高い直進性が求められる灯台の光源を省エネルギー化、長寿命化し、メンテナンス性を向上します。



パワーLED

駅で

発着案内などの情報伝達手段として、音声・表示で鉄道運行を支えます。



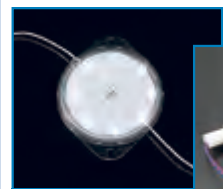
LED式電光掲示板



駅用ワイヤレスマイクロホン

コンビニや店舗で

店舗サインやショーケースなど、省エネに貢献するLED光源です。



看板用LED照明



ショーケース用LED照明

街の自動販売機で

表示や商品選択だけでなく、スマートフォンとの連動など最新機能を実現します。



金額表示器



商品選択ボタン

放送局で

視聴者に届ける音声を調整する機器と、局内連絡用の無線システムです。



音声調整卓



DECT規格インターカム



ポータブルミキサー

エコカーで

高信頼・高効率な部品・材料で、エコドライブや安心・安全を支えます。



車載用リアクタ・コイル



ソルダーレジスト



ソルダーペースト

風力・太陽光発電・インフラで

再生可能エネルギーの発電や直流送電の効率向上などに寄与する部品・材料です。



大型トランス・リアクタ



電流センサ



ゲートドライバモジュール



電源モジュール



導電性接合材



白色反射材



フラックス

工場で

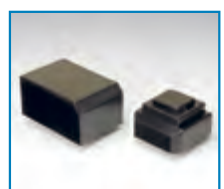
ロボットや工作機械の部品、プリント配線板実装に欠かせない装置が活躍しています。



電流センサ



ゲートドライバモジュール



電源モジュール



トランス・リアクタ



はんだ付装置

家庭で

エアコンやパソコンの省エネに寄与する部品、居室内で人の活動状況を見守るセンサです。



電流センサ



電源モジュール



リアクタ



人感センサ

スマートフォンやタブレットPCで

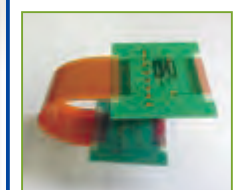
多機能化・小型化する機器の進化を支える材料です。



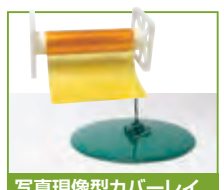
フレキシブル基板向けソルダーレジスト



黒色吸収材



導電性接合材



写真顕像型カバーレイコート(フィルム・液状)

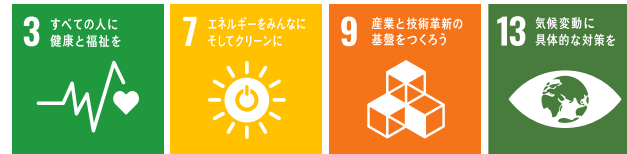
電子部品

電子化学実装

情報機器

電子化学実装

「高信頼」「高密度実装」のはんだ接合技術を極め、
環境に配慮した材料・装置で
持続可能なエレクトロニクス産業の成長に貢献します。



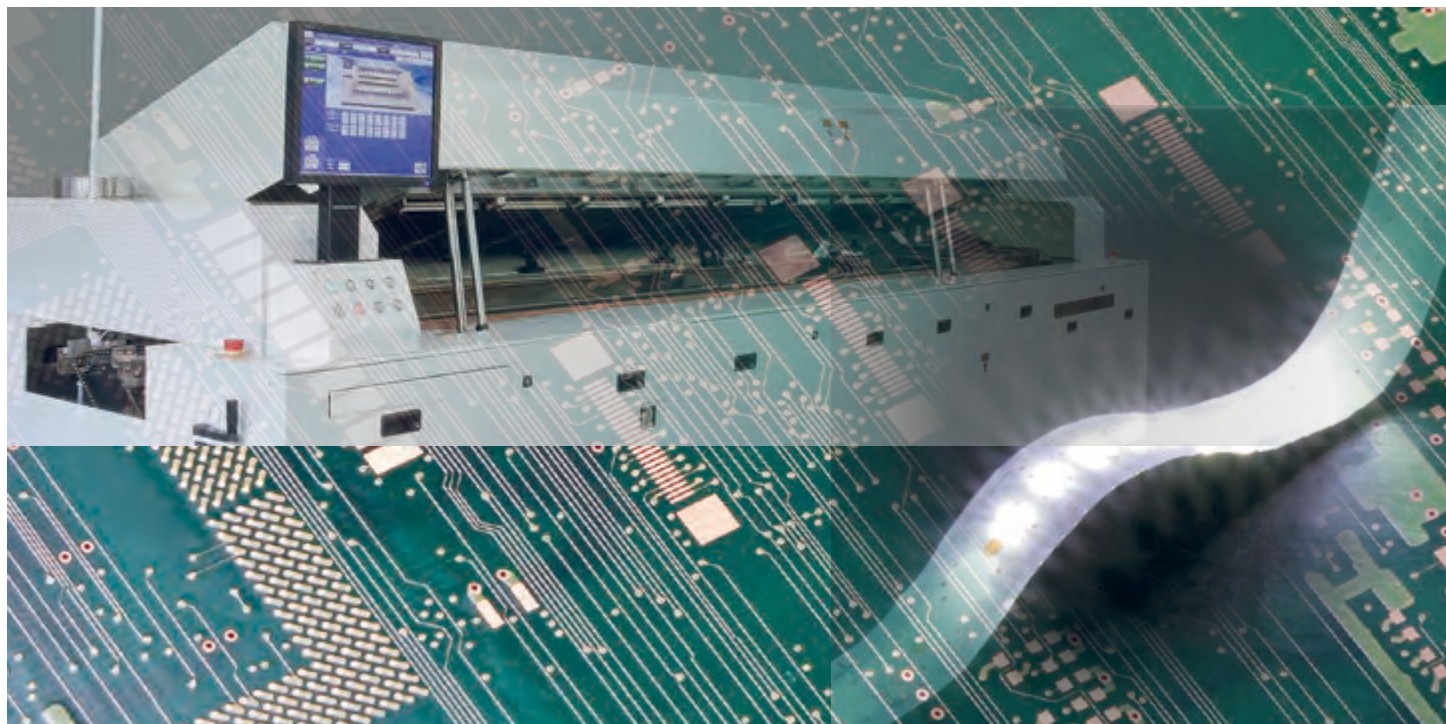
事業の社会価値

電子化学材料

- 自動車の低燃費化・高機能化に伴い車載部品の電子制御化・小型軽量化が進み、年々厳しくなる信頼性要求に応える優れた材料を提供しています。耐クラック性、耐熱性、耐湿性など、エンジンルーム内の厳しい搭載環境でも優れた性能を発揮する信頼性の高さが強みです。また、スマートフォンやウェアラブル端末など、多機能化・小型軽量化が進む機器へのさらなる高密度実装の要求や様々な接合方法に対応する材料で5G(第5世代移動通信システム)の高速・大容量通信を支えます。

実装装置

- 自動車の電装化の進展に伴う車載用プリント基板の需要増や、「インダストリー4.0」に代表されるスマートファクトリーの進展を背景に求められる、実装機と連携性のある高性能なはんだ付装置を提供しています。省電力・省資源を実現する優れた環境性能を武器に、実装ラインの効率化を実現し、進化する世界の工場のもづくりを支えます。



製品一覧



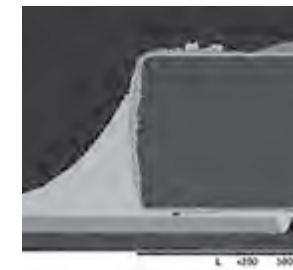
フラックス

タムラの材料開発の礎となったフラックス。はんだ付される金属面の酸化膜を化学的に除去し、はんだのぬれ性・広がり性を確保する材料です。



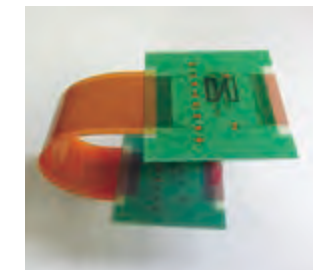
ソルダーペースト

はんだ粉末とフラックスを混合した表面実装向け接合材料。幅広い金属組成ラインナップで、微細実装用、車載用、マイクロポンプ形成用など各種用途に対応します。



高耐熱はんだ

自動車に搭載される電子機器は小型化・機電一体化により高い耐環境温度性が求められています。はんだ接合部のクラック発生を抑制し、電子機器の信頼性向上に貢献します。



導電性接合材

熱圧着プロセスを用いてフレキシブル基板とリジッド基板を低温かつ短時間で接合できる材料です。基板接続部の接合面積の縮小化と低温実装により、CO₂削減に貢献します。



ポイントはんだ付材料

レーザー等急加熱のはんだ付に対応したソルダーペーストです。3D実装、部分のはんだ付が可能です。ジェットディスペンス対応品もラインナップ。



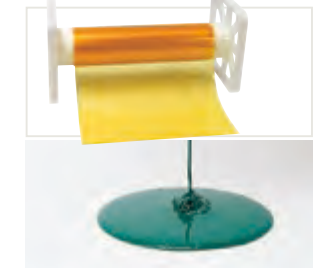
ソルダーレジスト

プリント基板を酸化から守り、絶縁性を保つ大切な役割を果たしています。プリント基板の顔であることから、外観・中身(信頼性)ともこだわります。



フレキシブル基板向けソルダーレジスト

ハロゲンフリーで豊富なカラーバリエーションに対応したフレキシブル基板向けソルダーレジストです。



写真現像型カバーレイコート(フィルム・液状)

機能モジュール化を実現させるために必要な加工性、微細実装対応、軽量薄型化、高い信頼性を有した絶縁材料です。



リフローはんだ付装置

プリント配線板に搭載された電子部品を加熱してはんだを熔融させ、部品と基板の回路を接合する装置。新型機では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術を搭載し、炉内へのフラックス付着の低減、窒素消費量の低減を可能とします。



ウェーブはんだ付装置

電子部品を挿入したプリント配線板の下面をはんだ槽に浸しながら通過させ、はんだ付接合する装置。浸食に強いチタン製のはんだ槽を使用し、加熱力の高い熱風ヒーターでプリヒートするはんだ付システムです。



白色反射材

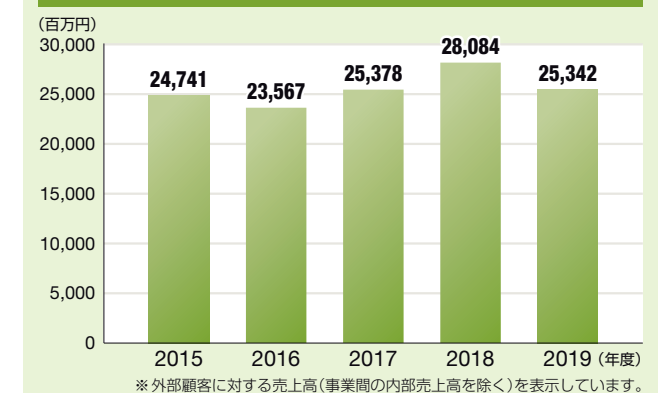
LED基板や太陽光発電パネルの背面に塗布し、反射率を高めます。高反射率、耐変色性に優れたハロゲンフリーの高機能材料です。



黒色吸収材

プリント配線板やフィルムの表面に塗布して、LEDの発光を際立たせます。配線を覆い隠すなど、デザイン性の要求にも応えます。

売上高の推移



「音」を通して社会基盤の 「安全・安心」の向上を図り、 お客様に「価値」「感動」を提供します。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう11 住み続けられる
まちづくりを

事業の社会価値

- 放送、通信分野で培った音声技術、通信技術を軸に、高解像度4K・8Kテレビ放送に対応する音声調整卓をはじめ、ワイヤレスインターカム等を放送局を中心に展開、視聴者の新しい体験を生み出し快適な暮らしの実現に寄与します。
- 独自の無線技術を、人の安全を見守るための様々なシステムに応用を進めています。

■ 製品一覧



放送用音声調整卓NTシリーズ

テレビ、ラジオ放送局などで使用される
音声を調整する機器です。
複数音声を効率良く調整するためにデジタルによる音声信号処理方式
を採用しています。放送設備の効率化を目的としたIP化に貢献するオー
ディオネットワーク機能を全機種に備えています。



ワイヤレス機器

DECT規格インターカムをはじめとする各種ワイヤレスインターカム
は、テレビ、ラジオ放送の番組制作におけるコミュニケーションツールと
して必要不可欠な製品です。駅用ワイヤレスマイクロホンは、ホームへ
の拡声放送だけでなく、制御用スイッチで、発車ベルや戸閉合図表示器
の制御が可能です。

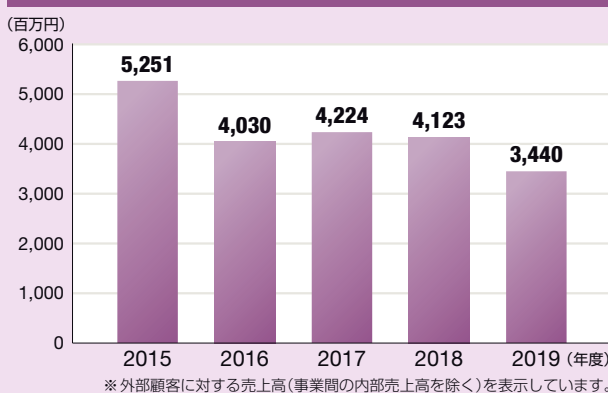
スタジアムでの来場者エリア把握事例



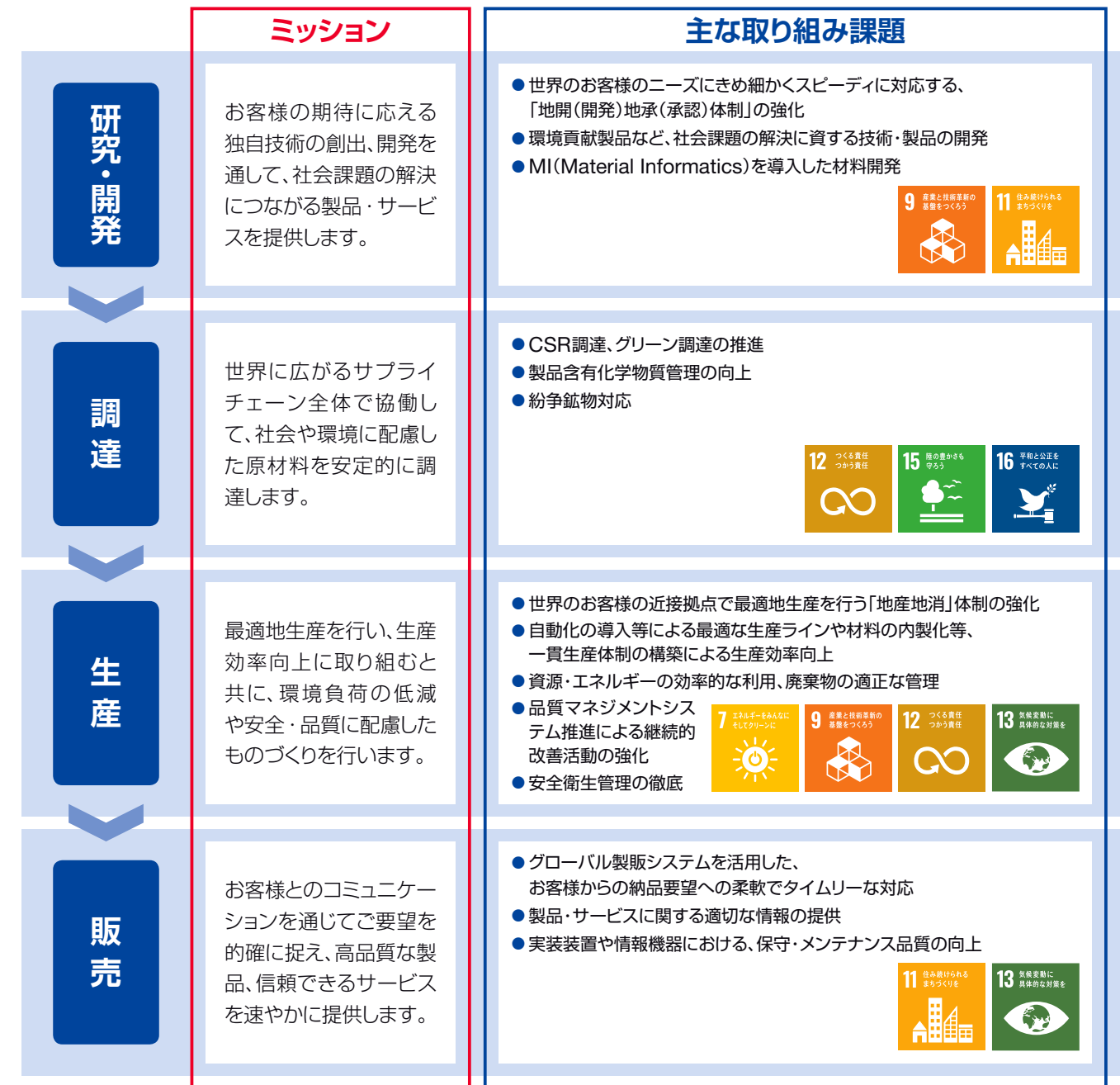
TS-LINK®

TS-LINKはタムラ独自のIoT分野向け無線技術です。TDMA方式を
用い無線通信の混信を避けると共に、収容端末数を増加させるための
高密度化や、端末移動にも対応した無線通信プロトコルです。大規模な
イベント会場における来場者の入退管理や所在エリアの把握などへの
展開を進めています。

売上高の推移



タムラグループは、世界のお客様に喜んでいただける、高品質で安全・安心な製品・サービスを提供し続ける
ために、研究・開発から調達、生産、販売までの全てのプロセスにおいて、社会や環境に与える影響に配慮
しながら事業活動を推進することで、社会課題の解決に取り組んでいます。



バリューチェーンを支える基盤

バリューチェーンの各プロセスにおいて付加価値を創出するため、ガバナンスやコンプライアンスの有効な機能、事業
活動を担う多様な人材の確保と育成、各拠点において地域社会への貢献や環境保全の取り組みを強化してまいります。





CSR目標と実績

タムラグループでは、環境・社会・ガバナンスに関連する、「環境」「人権・労働」「品質」「社会貢献」「コンプライアンス・企業倫理」「危機管理」「情報管理」分野のCSR推進に取り組んでいます。

※ SDGs(持続可能な開発目標)とタムラグループの取り組みの関連性を示すため、各項目に対応するアイコンを掲載しています。

自己評価

- 達成率100%以上
- 達成率80~100%
- 達成率80%未満

報告ページ

冊子:
TAMURA CORPORATION REPORT 2020で
報告している活動を示します。
Web:
<https://www.tamura-ss.co.jp/jp/csr/index.html>
一部を除いて活動全般を報告しています。

項目	重要課題	2019年度目標	2019年度の主な実績	自己評価	2020年度目標	報告ページ
環境	● 環境貢献製品の提供	● プレミア環境貢献製品 売上比率:21%	● 20%【目標未達成】		● プレミア環境貢献製品 売上比率:22%	冊子:19・20ページ Web: ◆ 環境経営 ◆ 環境目標及び実績と評価 ◆ 環境貢献製品 ◆ 環境保全への取り組み
	● 環境負荷物質の抑制、削減	● 環境負荷物質: 2005年度比原単位 60%削減	● 58%【目標未達成】		● 環境負荷物質: 2005年度比原単位60%削減	
	● 省エネルギー、省資源の推進	● 電気使用量: 2005年度比14%削減	● 16%【目標達成】		● CO ₂ 排出量:2013年度比7%削減	
	● ISO14001統合認証取得の推進	● 環境法規制順守	● 環境法規制違反なし ● 内部環境監査員スキルアップ研修実施		● 環境法規制順守	
人権・労働	● 人事制度・人材育成	● グローバル人材の育成 ● 海外研修の継続実施	● 経営層の育成研修導入(現在経営層・次世代若手選抜) ● 新入社員の海外研修 ● 人事制度のグローバル展開		● グローバル人材・経営層の育成 ● 人事制度の改定	冊子:21・22ページ Web: ◆ 人権・労働 ◆ サプライチェーンマネジメント
	● 働き方改革	● 労働環境の整備 ● ヘルスケアの充実	● 勤務場所・時間の自由度を高めるICTインフラ整備 ● 勤務間インターバル制度の導入 ● 労務管理研修、ストレスマネジメント研修実施 ● 有給休暇取得の促進(前年度比+1.1%) ● ストレスチェック、定期的なストレスカウンセリングの実施		● 労働環境の整備 ● RPA (Robotic Process Automation) 導入による業務効率向上 ● ヘルスケアの充実	
	● 多様性の推進	● 女性活躍推進行動計画の実践 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進	● 一般社員向けキャリアデザイン研修、 女性のキャリアデザイン講演会実施 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進		● 女性活躍推進行動計画の実践 ● 障害者雇用・高齢者雇用の推進	
	● 安全衛生推進	● 安全衛生推進	● 安全衛生社内巡視、交通安全講習会の実施		● 安全衛生推進	
	● CSR調達の推進	● 紛争鉱物対応	● 取引先様への使用状況調査実施 ● 「調達ガイドライン」に沿った契約等締結の推進 ◆ 紛争鉱物不使用 ◆ 反社会的勢力排除		● 紛争鉱物対応	
	● 高品質な製品の提供	● 品質教育体系の整備・拡充 ● 品質月間における品質向上啓蒙活動 ● タムラグループ品質推進大会の開催	● デザインレビュー実践研修、デザインレビューのレビュー研修、 人為ミス防止手法講習、仕事の教え方講習実施 ● 品質月間初日に品質担当執行役員からメッセージ伝達 ● タムラグループ品質推進大会の開催		● 品質教育体系の整備・拡充 ● 品質月間における品質向上啓蒙活動 ● タムラグループ品質推進大会の開催	
品質	● グリーン調達の推進	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の強化	● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質法規制の制定、改廃情報の共有化推進		● グリーン調達基準の更新 ● 製品含有化学物質管理の強化	冊子:22ページ Web: ◆ 品質・サービス ◆ サプライチェーンマネジメント
	● 継続性のある社会貢献活動の実施	● 各種寄付活動 ● リサイクル資源回収活動の推進	● 各種寄付活動 ● バングラデシュにおけるドロップインセンター事業支援 ● 使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収、 古本寄付、使用済み切手収集活動の推進 等		● 各種寄付活動 ● リサイクル資源回収活動の推進	
	● 地域共生、ボランティア活動の実施	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職場体験学習受け入れ ● 地域共生、ボランティア活動の実施	● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職場体験学習受け入れ ● 各事業所近隣・周辺環境美化活動の推進、 赤谷プロジェクトへの参画 等		● ものづくり教室開催 ● インターンシップ・職場体験学習受け入れ ● 地域共生、ボランティア活動の実施	
社会貢献	● 文化、芸術、スポーツ振興の実施	● スポーツ振興	● 女子サッカーチーム(ちふれASエルフェン埼玉)への協賛		● スポーツ振興	冊子:22ページ Web: ◆ 社会貢献活動
	● 法令、ルール順守の推進	● コンプライアンス教育の推進	● 安全保障輸出管理、下請法、不正競争防止法、情報漏洩防止等に関する集合研修 ● 研修教材を用いた小集団での討議形式研修 ● 身近なコンプライアンス違反のニュースやケーススタディ等をわかりやすく解説するメールマガジン配信		● コンプライアンス教育の推進	
	● CSRの浸透	● SDGs浸透の継続	● SDGs17ゴールを解説するメールマガジン配信、 CSR講演会、社内報等によるSDGsの社内浸透 ● 東京事業所・坂戸事業所社員食堂で サステナブル・シーフードを導入		● SDGs浸透の継続	
	● 危機管理の強化	● BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	● 新型コロナウイルス対応 ● 事業セグメントごとにグローバルでBCPを展開 ● 国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施 ● 国内各事業所における備蓄品の拡充		● 新型コロナウイルス対応 ● BCP文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	
コンプライアンス・企業倫理	● 危機管理の強化	● BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	● 新型コロナウイルス対応 ● 事業セグメントごとにグローバルでBCPを展開 ● 国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施 ● 国内各事業所における備蓄品の拡充		● 新型コロナウイルス対応 ● BCP文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	冊子:21ページ Web: ◆ リスクマネジメント ◆ 人権・労働
	● 情報保護体制の強化	● 情報保護体制の強化	● サイバー攻撃や情報漏洩防止のためのネットワークセキュリティの強化		● 情報保護体制の強化	
ガバナンス	● 適時適切な企業情報開示の推進	● Webサイトによる適時適切な企業情報開示	● Webサイトによる適時適切な企業情報開示		● Webサイトによる適時適切な企業情報開示	Web: ◆ リスクマネジメント ◆ コーポレート・ガバナンス
	● 危機管理の強化	● BCP(事業継続計画)文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	● 新型コロナウイルス対応 ● 事業セグメントごとにグローバルでBCPを展開 ● 国内各事業所にて、避難訓練、安否確認訓練を実施 ● 国内各事業所における備蓄品の拡充		● 新型コロナウイルス対応 ● BCP文書の定期・臨時の見直し ● 防災訓練の実施	



環境トピックス

グローバル統合認証を通じた脱炭素社会への貢献

タムラグループは、2006年度よりグローバルに統一した環境マネジメントシステムを構築し、2019年度までに15社22サイトを統合しています。

この度、パリ協定の「2℃未満目標」に則り、2030年度の温室効果ガスを2013年度比21%以上削減、再生可能エネルギー導入を推進するため、2030年度の導入量を2019年度比2倍以上にする新たな目標を設定しました。

タムラグループは、持続的な成長と持続可能な社会の実現に向け、SDGsに掲げられた社会的課題の解決と脱炭素社会への貢献に取り組んでまいります。

タムラグループ環境目標

- 温室効果ガス排出量*：
2030年度 **21%以上削減**(2013年度比)
- 再生可能エネルギー導入量：
2030年度 **2倍以上**(2019年度比)

- *・Scope1(自社での燃料使用や生産プロセスからの直接排出)、Scope2(自社が購入した電気や熱の使用による間接排出)を対象。
● 新工場に係る排出量は基準年含む過去年度へ上乗せし、事業開始後の削減努力を適切に評価。
● 排出係数は、契約に基づいて購入した電力の排出係数(毎年変動)。

プレミアム環境貢献製品の取り組み

タムラグループでは、開発・設計段階で製品環境アセスメントを実施し、環境影響の最小限化に取り組むと共に、プレミアム環境貢献製品の開発・提供を通じてSDGsへの貢献に取り組んでいます。

オープン型大電流センサ L40S、L51Sシリーズ

L40S、L51Sシリーズは、太陽光発電、風力発電などの再生可能エネルギー及び蓄電システムなどのエネルギー管理システム向けのオープン型大電流センサです。

温度補償回路により、-40℃～105℃といった広い温度範囲で、1%のリニアリティ誤差と0.05%/℃の出力温度特性を実現し、過酷な自然環境下でも高精度にシステムを制御するのに適しています。また、シールド技術により、dV/dtなどの耐ノイズ性は当社従来品比で3倍以上を実現しています。さらにL51Sは、ケース構造の設計を工夫することで、従来品と比較して充填剤の量を20%削減、環境負荷低減に貢献しています。



L51S(左)、L40S(右)

タムラグループ環境方針

環境理念

タムラグループミッションである「私たちは、タムラグループの成長を支える全ての人々の幸せを育むため、世界のエレクトロニクス市場に高く評価される独自の製品・サービスをスピーディに提供していきます」に基づき、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を推進し、全ての企業活動において環境との調和を図ります。

重点施策

SDGs(持続可能な開発目標)やパリ協定をはじめとするグローバル目標を認識し、事業の継続的な成長を目指して、タムラグループの事業である電子部品、電子化学材料、はんだ付装置、情報機器関連の設計・開発・製造・サービス活動において、環境マネジメントシステムを運用し、資源の有効活用、汚染の予防及び法規制等を順守すると共に、その継続的な改善を図り、次に示す環境保全活動を重点的に実施します。

1. 環境貢献製品を提供します。
2. 環境負荷物質を抑制し、削減します。
3. 省エネルギー、省資源を推進します。



5G(第5世代移动通信システム)対応ソルダーペースト TLF-TNA23シリーズ

急速に整備が進む5Gの基地局は、多くが屋外・高所・寒冷地の厳しい環境下に設置されており、制御装置が故障すると関連する全ての無線装置に影響が及ぶ可能性があるため、使用されるソルダーペーストには非常に高い信頼性が求められます。

TLF-TNA23シリーズは、特殊なハロゲンフリー技術により実装箇所が吸湿してもマイグレーションが発生し難い性能を有しています。また、ラインナップには、高電圧による熱衝撃にも耐え得る高強度(クラック抑制)合金の#287組成と組み合わせた製品も取り揃えています。

環境に優しいハロゲンフリー、鉛フリー製品です。



スマートフォン向けリジッド基板用黒色ソルダーレジスト APB-200シリーズ

スマートフォンのさらなる高機能・軽薄化に伴い、プリント配線板の高集積・高密度化が進んでいます。

黒色写真現像型ソルダーレジストAPB-200シリーズは、基板作成時の露光工程において、当社従来比1/3以下の低露光(100mJ/cm²)と高解像性能を達成、高密度プリント配線板工程に必須とされるダイレクトイメージング露光プロセスで高い生産性と優れた解像性を実現しました。

また、光の反射を抑えた外観のため、外観自動検査において高い視認性を有し、高密度部品実装に優れた適合性を示します。環境に優しいハロゲンフリー製品です。



解像性SEM観察写真

ピア開口性SEM観察写真

可搬型DECT規格インターカムシステム

「可搬型DECT規格インターカムシステム」は、これまで培ってきた可搬型インターカムシステムの技術を継承し、新たなDECT規格に準拠したタムラの新しいデジタルワイヤレスインターカムです。

直感的に使用できる操作性はそのままに、利便性がさらに向上しました。子機を10台接続する場合、従来機(YFP-1821B)は3台必要でしたが、本機(MK-H96)では1台で接続可能

項目	ポータブルコントローラの従来機との比較
消費電力	約12%削減
部品点数	約37%削減
体積	約65%削減
質量	約65%削減

※条件:子機10台接続



ポータブルコントローラ(MK-H96)

子機(MK-B96)

になりました。また、通信距離が短い場合は、RF Power設定機能により、省電力化と他者にとって妨害となる電波の抑制を行うことが可能になりました。



社会・ガバナンストピックス

働き方改革・業務改革の推進

快適に仕事に専念できる労働環境の整備

働きがいの向上と適切な労務管理を両立させることにより、従業員が継続して快適に仕事に専念できる労働環境づくりに取り組んでいます。

働きがい向上施策として 育児や介護、ボランティアなど多目的休暇や、時間単位での有給休暇を取得できる制度を導入しています。また、育児、介護、配偶者の転勤など一定の理由で退職した従業員を再び従業員として受け入れる制度を設けるなど、従業員の価値観や働き方が多様化する中で、仕事と家庭の両立支援を実施しております。労務管理の適正化に関しては、全事業所の管理監督職を対象に、労務管理研修及びストレスマネジメント研修を実施し、コンプライアンスに基づく労務管理の徹底とストレスの少ない職場環境の実現に向けた取り組みを推進しています。

2019年度は勤務間インターバル制度(当日終業から翌日始業まで一定時間を空ける制度)を新設すると共に、さらなる有給休暇取得率向上施策を実施しました。これらの活動が認められ、経済産業省より「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」の認定を受けました。



ICT環境整備

雇用・働き方の多様化で、様々な状況下(場所、時間、距離)で行動する従業員が柔軟に働けるICT環境整備を推進しています。

これまで一部の従業員にのみ適用していた在宅勤務制度を全社展開する計画を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として2019年度から前倒しで導入を行いました。クラウド環境でのデータ共有やWeb会議など、多くの従業員が自宅でも社内とほぼ同様の環境で業務できるようになっています。特に子供の学校臨時休校などにより自宅待機が必要となる従業員にとっては、子供のケアをしながら業務を行うことが可能になり、事業継続の観点でも有効です。

業務効率向上

定型業務の工数削減を目的とし、パソコン業務のうち決まった操作を繰り返す「定型的な業務」を自動化するRPA(Robotic Process Automation)活用に取り組んでいます。まずは補助的な業務に導入し効果を確認しながら、全社に展開できるよう準備を進めています。働き方改革を進める上で、業務効率を向上させ定型業務から高付加価値業務へシフトする動きは欠かすことのできない要素であり、早期の本格導入を目指しています。

SDGsへの取り組み

タムラグループは、2015年に国連総会で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を社会から求められる重要な課題と捉え、SDGsの考え方を経営に統合し取り組みを進めています。

2019年度もグループ全従業員がSDGsを自分ごととして理解し、取り組んでいくために、様々な社内浸透策を推進しました。

SDGsメールマガジン

SDGsの17ゴールと169ターゲットを解説し、タムラグループの取り組み事例を紹介する全19回のメールマガジンを配信しました。メルマガ配信後のアンケートでは、SDGsへの理解を深めることができ、今後の取り組みのヒントを得られたなどの感想が寄せられ、従業員のSDGs認知度は97%に達しました。



社員食堂でサステナブル・シーフードを導入

東京事業所・坂戸事業所の社員食堂で、2020年1月より定期的に、サステナブル・シーフードを使用したメニューを提供しています。海洋環境や水産資源に配慮して漁獲、または養殖された持続可能な水産物の国際認証「MSC」「ASC」を取得した食材であるサステナブル・シーフードを選ぶことで、SDGsの一つ「海の豊かさを守ろう」に貢献し、漁獲量を守る生産者を支援する取り組みです。

現在、社員食堂にサステナブル・シーフードを導入している企業は、日本では8社程度(2020年3月時点)とみられますが、先進導入企業のパナソニック株式会社様をはじめ、日本での普及を推進する公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)様、認証を取得していただいた給食会社の株式会社はな籠様のご協力のもと、導入が実現しました。



経営層の育成(現在経営層・次世代若手選抜)

2019年より、事業の中核を担う執行役員、本部長クラスを対象に経営層研修を実施しています。戦略立案、事業マネジメント、リーダー



シップに関する能力の向上を図り、より高いレベルでのマネジメントができるようになることを狙いとしています。同じく2019年より社外取締役蓑宮武夫氏を塾長に迎え、次世代の経営幹部候補者を対象とした育成塾を開催しています。プログラムはマネジメント、経営学のみならず、心理学、歴史文化など、幅広い内容で構成されており、実学だけでなく教養も身に付けた人材を育成してまいります。

これらの研修は、人脈を形成する場にもなっており、事業の枠を超えたつながりの構築・強化も目的としています。

ものづくり教室

未来を担う次の世代に「ものづくり」の素晴らしさを伝えていくために、2008年より毎年ものづくり教室を開催し、従業員が子供たちにAMラジオなどの製作を指導しています。2019年度もタムラ製作所、若柳タムラ製作所、会津タムラ製作所で開催し、好評を博しました。



① タムラ製作所入間事業所
② 若柳タムラ製作所
③ 会津タムラ製作所



入間事業所のものづくり教室に指導員として初めて参加しました。生徒の皆さんは、最初は高温のはんだごてを扱うことに躊躇しながらも、本格的なはんだ付にワクワクしながら取り組んでおり、無事に完成した時には一緒に達成感を味わうことができました。

会社概要

会社名 株式会社タムラ製作所
TAMURA CORPORATION

創業 1924年 5月11日

設立 1939年11月21日

資本金 11,829百万円

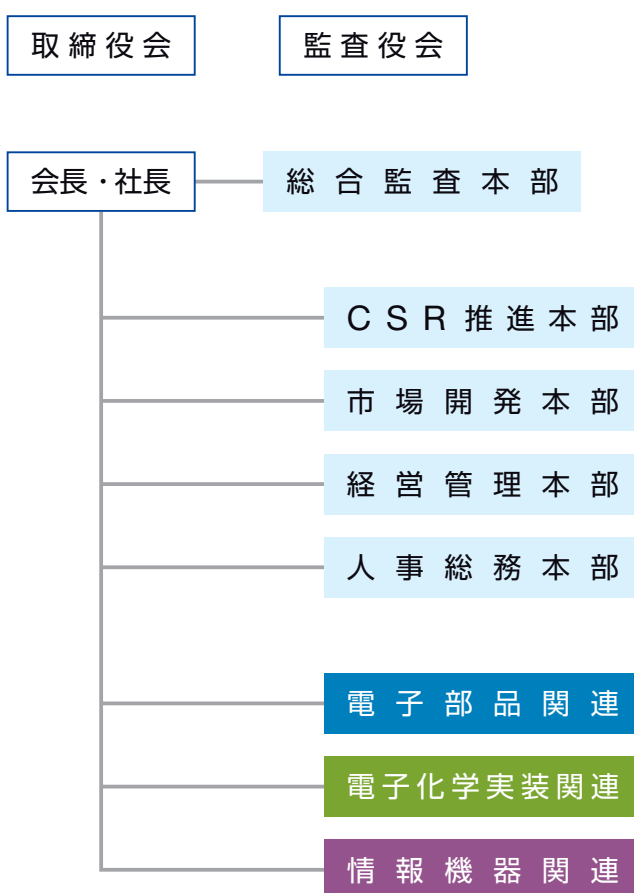
株式 (2020年3月31日現在)
発行可能株式総数 252,000,000株
発行済株式の総数 82,090,751株
(自己株式680,722株を除く)
決算期 年1回 3月31日
株主数 11,451名

役員 (2020年6月25日現在)

代表取締役会長	田村 直樹
代表取締役社長	浅田 昌弘
取締役常務執行役員	橋口 裕作
取締役(社外)	蓑宮 武夫
取締役(社外)	窪田 明
取締役(社外)	渋村 晴子
取締役上席執行役員	南條 紀彦
取締役上席執行役員	齋藤 彰一
常勤監査役	久保 肇*
監査役(社外)	守屋 宏一
監査役(社外)	戸田 厚司

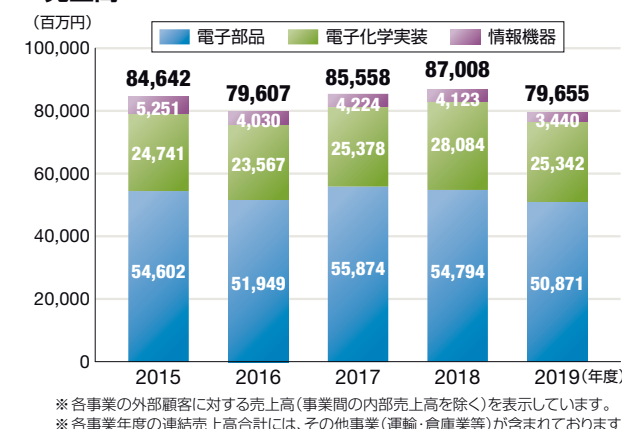
*会社法第346条第1項の定めに基づく権利義務監査役

組織図 (2020年4月1日現在)

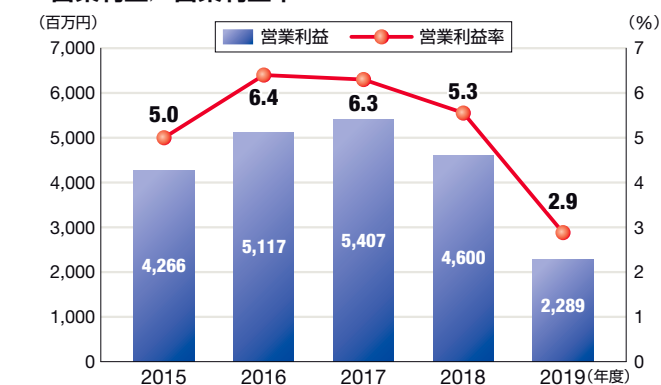


主要財務情報(連結)

●売上高



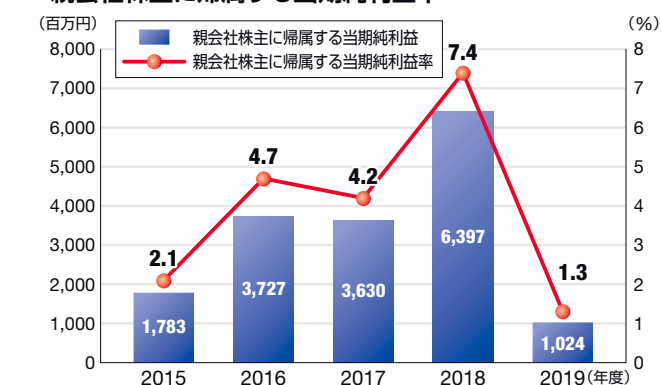
●営業利益／営業利益率



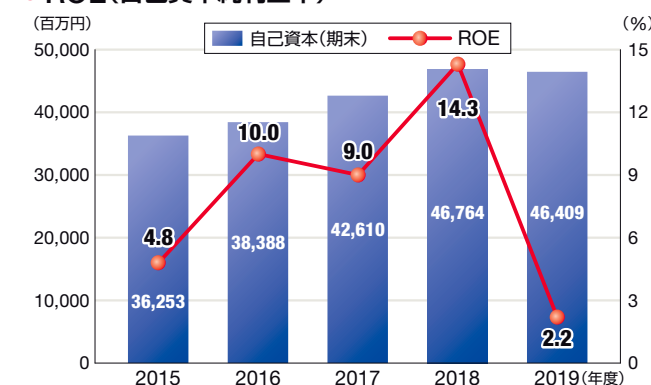
●経常利益／経常利益率



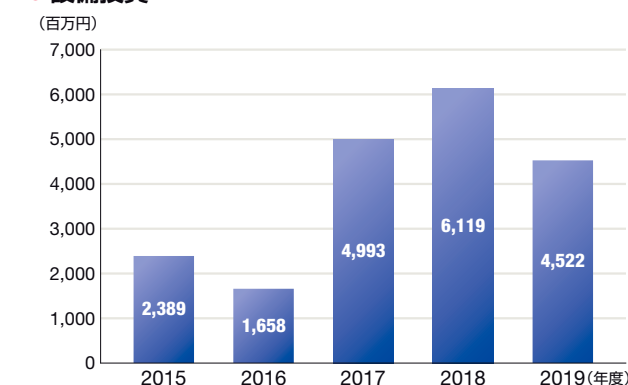
●親会社株主に帰属する当期純利益／親会社株主に帰属する当期純利益率



●ROE(自己資本純利益率)



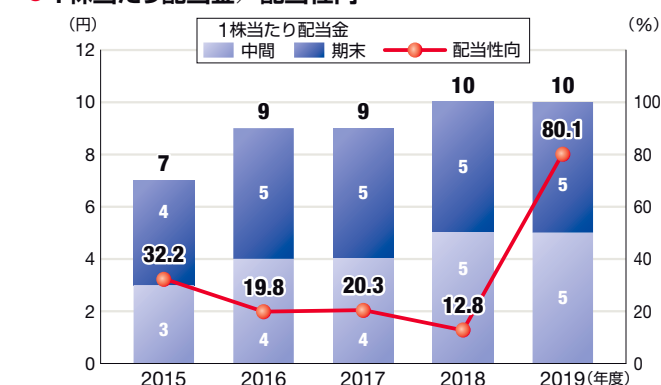
●設備投資



●1株当たり純資産額



●1株当たり配当金／配当性向



EUROPE

AMERICAS

ASIA

JAPAN

■ 若柳タムラ製作所 車載工場

若柳タムラ製作所の前身「若柳電子工業」は、1966年設立。かつてはAV向け小型トランスを中心とした国内主要生産拠点の一つでした。その後、顧客の国内生産の縮小や、2011年の東日本大震災による被災などの試練が続きましたが、将来の拡大が期待される「車載用昇圧リアクタ」の量産工場としてリニューアルし、2018年8月に新社屋が完成しました。以降、設備投入や試作品の生産を進め、2019年下期より本格量産を開始しています。



■ イーエスイー・インダストリーズ(タイ)株式会社

2017年11月、イーエスイー・インダストリーズ(タイ)株式会社へ資本参加しました。長年OEM先として、同社にアセアン地域向けのソルダーペーストの最終工程を委託してきましたが、今後はタムラの連結子会社として原材料(はんだ粉)からの一貫生産で地産地消を実現し、原価低減による利益向上を目指します。2018年10月に新設した第2工場が完成し、2019年4月より地金・はんだ粉等の量産・販売を開始しています。



■ タムラエルソルド有限公司

2017年10月、ドイツのはんだメーカーであるElsold GmbH & Co. KGの持分100%を取得し、タムラエルソルド有限公司を設立しました。同社は、従来欧州の代表的な自動車関連メーカーが主な顧客であり、「棒はんだ、糸はんだ」などの自動車市場向け製品が、売上高の約6割を占めています。

現在では、当社からの指導のもと新たに「ソルダーペースト関連製品」の生産設備を導入し、欧州エリアにおける開発・生産・販売一貫体制の構築を進めています。非日系車載顧客向けを中心に、高付加価値実装材料の拡販を推進してまいります。



■ タムラ化学韓国株式会社
■ 株式会社韓国タムラ
■ タムラプロフェッショナルソリューション코리아株式会社

■ 田村(中国)企業管理有限公司
■ 上海祥泰田村電化工業有限公司
■ 田村自動化系統(蘇州)有限公司
■ 田村電子(蘇州)有限公司
■ 田村精工電子(常熟)有限公司

■ 田村電子材料(天津)有限公司

■ 合肥博微田村電気有限公司

■ オブシード・バングラデシュ・リミテッド

■ アースタムラエレクトロニクス(ミャンマー)株式会社

■ タムラ・エルコンポニクス・テクノロジーズ

■ タムラタイランド株式会社

■ イーエスイー・インダストリーズ(タイ)株式会社

■ タムラ電子(マレーシア)株式会社

■ タムラ化研(マレーシア)株式会社

■ タムラベトナム有限公司

■ タムラシンガポール株式会社

■ 田村香港有限公司

■ 田村化研(東莞)有限公司

■ 田村電子(深圳)有限公司

■ 田村電子(惠州)有限公司

■ タムラベトナム有限公司

■ タムラシンガポール株式会社

■ 田村香港有限公司

■ 田村化研(東莞)有限公司

■ 田村電子(深圳)有限公司

■ 田村電子(惠州)有限公司

■ タムラベトナム有限公司

■ タムラシンガポール株式会社

■ 株式会社若柳タムラ製作所

■ 名古屋営業所

■ 株式会社会津タムラ製作所

■ 株式会社タムラ製作所

■ 本社/東京事業所

■ 坂戸事業所

■ 入間事業所

■ 狭山事業所

■ 児玉工場

■ 株式会社光波

■ 大阪営業所

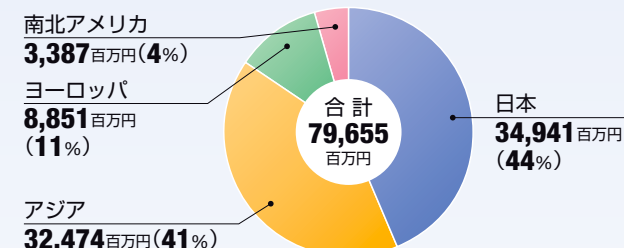
■ 福岡出張所

■ テレパート・タムラ
■ インドサル・エムジー

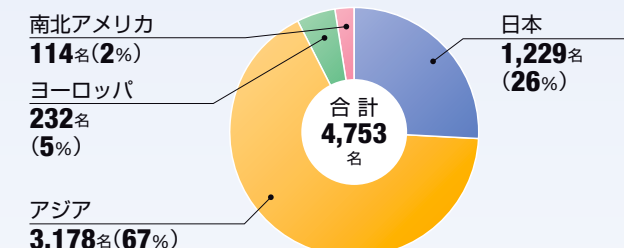
■ インドサル・エスシー

■ 本社・地域統括・その他
■ 電子部品
■ 電子化学材料
■ 実装装置
■ 情報機器

● 地域別売上構成(連結) (2019年度)



● 地域別従業員構成(連結) (2020年3月31日現在)





コミュニケーション・オン・
プログレス

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プログレス**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。



タムラグループマスコット
“クーニユ Quenu”

株式会社タムラ製作所

TAMURA CORPORATION

<https://www.tamura-ss.co.jp/>

〒178-8511 東京都練馬区東大泉1-19-43